

Newsletter from the Principal's Desk

自らの賜物を 最大限に活かし 拓かれた未来へ

No. 13

Thursday, July 10, 2025

函館市杉並町23-11

遺愛女子中学校高等学校

愛によって世界を変える力

6月26日(木)礼拝のお話 谷地牧夫先生

シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とした。手下の名はマルコスであった。イエスはペトロに言われた。「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」

ヨハネによる福音書18章10節～11節

皆さんおはようございます。今日は「その手をおさめなさいー暴力は答えになるのか？」というテーマでお話をしたいと思います。

最近、うちの3歳の息子が、うまくいかなかったり思い通りにならなかったりすると、すぐに叩いて暴力をふるってくるようになりました。

大好きなYoutubeをみせてもらえない、食べたいお菓子を食べたいときに食べられない、お風呂に入りたくない、自分の気持ちをうまく伝えられなかった。そんな時、「アンパンチ！」と泣きながら「バンッ！」と手が出てしまうのです。人間は道徳や倫理や規範が整う以前の段階では生来狂暴な生き物なのだ・・・と考えさせられます。そして子供向けの番組をみても「戦隊もの」、や「仮面ライダー」、「プリキュア」そして、「アンパンマン」どれをとっても問題の解決方法は正義の名のもとにふるわれる暴力です。

もちろん子供たちはまだ小さくて、感情をことばにするのが難しい年ごろです。手が出ちゃうのも仕方ないのかもしれませんが、でも、私は彼に繰り返し伝えます。「叩いたって、うまくいかないよ」「叩かれたら、相手はもっと怒るよ」「暴力は、気持ちを伝える方法じゃないよ」そしてふと思ったんです。大人だって、私たちだって、同じことをしていないだろうか？

「言い返す」「無視する」「SNSで攻撃する」「感情的なLINEを送る」「ものにあたると殴る」「蹴る」究極的には「殺す」私たちの中にも、物理的あるいは精神的に「叩く手」「怒りの手」がある。そして今、世界でも同じように、“自らの正しさ”を主張する暴力が止まりません。戦争も、報復も、暴力の応酬も。

ここで私はひとつの問いを持ちました。

「暴力は、正しい答えにたどり着けるのか？」「暴力は、“正義”になりうるのか？」

今日の聖書箇所ではイエスが捕らえられる直前の夜。弟子のペトロは、剣を抜いて大祭司のしもべのマルコスの耳を切り落としました。きっと彼は「イエスを守るため」「悪を止めるため」と思っていた。つまり、“正義”のつもりだったんです。でも、イエスはペトロに言います。「剣を鞘に納めなさい。」そして、ルカによる福音書によれば、このあとイエスはその人の耳に手をふれて、いやされた（ルカ22:51）。

暴力に対して、イエスが選んだのは「仕返し」ではなく「いやし」でした。

ここで、もう一度問い直します。「暴力は、正義ではないのだろうか？」世界の歴史を見ても、「正しいから戦う」「相手が悪いから倒す」という考えで、戦争が繰り返されてきました。でも、本当にそれで問題は解決したのでしょうか？傷ついた人の心は癒されたのでしょうか？正義が勝ったあとに、ほんとうの平和は来たのでしょうか？

ペトロの剣も、たしかにイエスを守ろうとした正義の行動だった。でもその剣は、誰の心も変えなかったし、ただ、傷を生んだだけだったのです。イエスは、「正しさ」を通すために力を使うのではなく、神の愛によって人の心を変える道を選びました。

では、本当の強さって何なんだろうかイエスの「剣を納めなさい」という言葉は、「何もしないで我慢しろ」という意味ではありません。それは、「暴力ではなく、愛で向き合え」ということです。

怒りをコントロールする力、人の痛みに気づくやさしさ、やり返したい気持ちを超える赦し。これこそが、神さまの正義であり、本当の意味で「強い人」の姿です。

暴力は、たしかに何かを一瞬で終わらせることがあります。でも、それが生むのは「傷」と「分断」と「恐れ」です。イエスはペトロに言いました。「その手をおさめなさい」それは、私たちへの言葉でもあります。

これからの学校生活の中で、合唱コンクールや遺愛祭、その中での部活動や受験勉強、いろいろな事が重なったりして思い通りにいかなかったり、自分の考えとは違う事に向き合わなきゃいけなくて、むかついたり、心が嫌な気持ちで満たされたり、身のまわりにいさかきも発生するかもしれません。怒りに心が燃えそうになるとき、誰かをねじ伏せたくなくなるとき、正義の名のもとにやり返したくなるとき、

そのときこそ、この言葉を思い出してください。

「その剣をしまいなさい」「本当の答えは、暴力の先にはないのです。」「暴力は、自分の正しさを一瞬だけ通すかもしれない。でもそれは、誰かを深く傷つけることでしか成り立たない“正義”です。聖書が語る正義とは、人を立ち上がらせ、和解へと導く正義です。神の正義とは、暴力ではなく、愛によって世界を変える力。その道を、私達も選びたいのです。」

一言お祈りします。

神さま、私たちの心にも、ときどき怒りや憎しみがわき起こります。世界では今も、戦争や暴力が終わらずにいます。でも、あなたは「剣を納めなさい」と語られました。世界に戦争があるように、私たちの心の中にも小さな争いがあります。どうかその手をおさめ、いやしとゆるしの道を選べる力を与えてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン。

遺愛生は猛暑の中でも活躍中です！

令和7年度函館市中学校体育大会新体操大会

団体優勝

C3A 寺谷 藍 C3A 帰家 稟和 C2A 小林 舞桜
C2A 坪内 沙奈 C2A 若林 碧乃

個人3位

C3A 寺谷 藍

寺谷さんは、全道大会個人の出場権を獲得しました。

団体と個人1名 7月29日から30日まで江別市で行われる全道大会に出場いたします。

第58回道南陸上競技選手権大会

K1J野口桃佳 400m 1:04.96 800m 2:38.18

K2I川口海咲 1500m 5:41.74(優勝)

K3A計良桃華 円盤投26m71 やり投25m77

砲丸投10m35(優勝・自己ベスト)

K1B赤間菜穂 100mH 19.36 走高跳 1m35

C2A松浦絵玲奈 800m 3:00.23(自己ベスト)

女子4×100mR 53.25

K2B花巻双葉 200m 26.56(自己ベスト)

K2H高松夢愛 300mH 59.35 100m 14.19

K2G大濱花里菜 100m 14.03

K1H井村 礼 1500m 7:10.54

K1H小松由奈 1500m 5:55.67

3000m 12:57.26(優勝・自己ベスト)

女子4×400mR 4:35.30

高校3年生 部活動を引退して～部長引退の言葉～

剣道部 K3C 森 来夢さん

約2年半の部活動は私の学校生活をとても明るくしてくれる存在さでした。私が入部した頃の剣道部は強くてストイックな先輩たちが引っ張ってってくれて、すごく憧れていました。

実際に部を引っ張っていく立場になると見えなかった景色がたくさんあって、同じ三年生メンバーや後輩たちにたくさん迷惑をかけてきたし、助けてもらってばかりでした。遠征や全道大会など、精神的、肉体的にも辛いこともありました。1週間近く試合を繰り返した時はみんなで声を掛け合いながら乗り越えました。先輩後輩関わらず、アドバイスや声かけをできるのは剣道部の強みだと思います。稽古前や稽古後の雰囲気明るく、毎回楽しかったです！

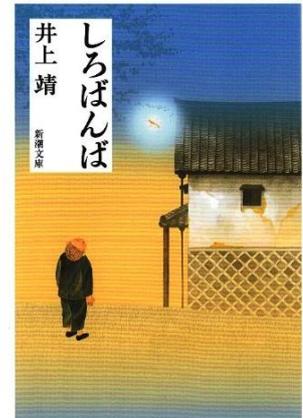
1年生は初めてで大変な年だと思いますが、わからないことはすぐ聞いて頑張ってください！2年生はお互いに支え合って仲間を大切にしてください！柳谷先生、佐藤先生、剣道部のみんな本当にありがとうございました！



副校長・井上先生のこの夏のお勧め本

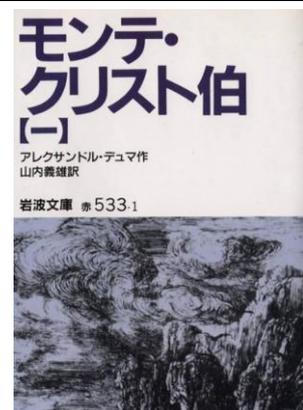
井上靖『しろばんば』 新潮文庫ほか

子どもでも大人でも、楽しく読めて深く感動する、素晴らしい小説。大正時代の伊豆を舞台とした、主人公洪作(洪ちゃ)の成長物語。この時代の田舎ならではの濃密な人間関係が印象的。地縁血縁の中で大人たちは、いがみ合ったり張り合ったり、しょっちゅうケンカして悪口を言い合ったりしながらも、困ったときは助け合うし、病気になればみんなで見守るし、誰かが亡くなればそれが不仲な相手であっても本気で悲しんで涙する……。そんな大人たちに囲まれながら伊豆の大自然の中で、みずみずしい心がはぐまれていきます。



アレクサンドル・デュマ『モンテ・クリスト伯』 岩波文庫ほか

欧米の小説が難しく見えて敬遠している人がいたら、ぜひ読んでほしい本。文庫本で7巻もある長大な作品ですが、圧倒的におもしろい。読み始めてその世界に入ることができたら、もう途中では止められなくなります。そして、古典的名作というのは、人生に影響を与える「深み」を持っているものです。私の場合、この小説の前半に出てくる「ファリア司祭」という人物が、忘れられません。困難に直面した時に何度となく「ファリア司祭」の生きざまを思い出して勇気をもらいました。『モンテ・クリスト伯』を読まないなんて、もったいない！



夏目漱石『三四郎』 新潮文庫ほか

世界の多くの国々には、(英国人にとってのシェイクスピアのように)自国を代表する作家がいて、その国の人たちはみんなそれを読んで育つと言います。日本人にとってそんな作家がいるとしたら、なんといっても漱石だと思います。では、どれを読むか？ 『坊っちゃん』『猫』『ころ』…どれもすばらしいのですが、いちばんのお勧めは『三四郎』です。大学で学ぶために熊本から東京に出てくる青年の話です。特にこれから大きな街へ進学しようと考えている人にはお勧めです。



都会には、びっくりするほどたくさんのものであり、いろいろな人がいます。そこへ行ったときに、何にあこがれ、どんな人を見てカッコイイと思うのかによって、人生の方向性が決まっていきます。

封建時代の名残も色濃い熊本から、「文明開花」真ただ中の東京に出てきた小川三四郎は、驚きととまどいの連続の中で、自分の生き方を探って行きます。解決策の見えないもっとも大きな難題とは……？ そう、「恋」です。